

令和6年度 白馬村観光振興のための財源確保検討委員会
第2回 登山協力金検討部会 議事録

日時	令和6年9月26日(木) 10:00~10:40
会場	白馬村役場 203・204 会議室

■委員

委員	白馬山案内人組合 組合長	松澤 幸靖	欠席
	株式会社 白馬館 取締役 営業部長	松沢 英志郎	出席
	株式会社 からまつ	下川 利郎	出席
	白馬村振興公社 事務局長	吉川 健一郎	出席
	白馬村索道事業者協議会	松沢 修	出席
	白馬村観光局	吉沢 紘一	欠席
	環境省 中部山岳国立公園管理事務所	仁田 晃司	Web
	中信森林管理署 白馬森林事務所	岡本 守	出席
事務局	白馬村役場 観光課長	鈴木 広章	出席
	白馬村役場 観光商工係長	矢口 浩樹	出席
	白馬村役場 観光課 主事	大和田 悠太	出席

1. 開会

開会宣言

2. 部会長挨拶

〈松沢部会長〉

9月25日(水)の新聞にて長野県の宿泊税が300円という記事があった。
昨年から検討されている観光財源の一つの候補として登山協力金もあるので、今回の議論を踏まえて今後も検討していきたい。

本日はよろしく申し上げます。

3. 協議事項

〈大和田主事〉

白馬村登山協力金(案)について説明。

概要…白馬村を訪れた登山者、観光客が対象で村内の店舗や山小屋、リフト乗り場を訪

れた際、掲示してあるポスターの二次元コードや募金箱によって協力金を納めていただく。その納めていただいた協力金は白馬村に入り、(仮) 新たな観光財源基金となる。

〈松沢部会長〉

店舗、山小屋、リフト乗り場とあるが、これは村内の事業所、例えば旅館やホテルでも行うのか。

〈大和田主事〉

その通り。白馬村での取り組みとなるため協力いただける場所にはポスターを掲示させていただき、山小屋は募金箱とポスターで予定をしている。

〈松沢部会長〉

徴収の額はいくらを考えているのか。

〈鈴木観光課長〉

特に定めていない。多くいただける方がいらっしゃれば多い金額でも良いと考えている。そのため現状では、金額については固めていない。

〈大和田主事〉

あくまでも協力金なので協力いただける範囲で構わないものだと考えている。

〈(株) からまつ 下川委員〉

この協力金は自由なのか。

〈大和田主事〉

その通り。協力金に関しては税とは異なり、任意の協力金になるので白馬村に協力していただける方が納めていただくものになる。

〈鈴木観光課長〉

そのときに1つの目安として額を設けるのか。一口500円や1000円という設定にするのか。そういった部分も十分考えられると思うので委員の皆様にご意見いただければと思う。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

他の地域でも既にやっているところはあるのか。

〈大和田主事〉

他の地域では市町村独自ではなく、山域で行なっているトレイルプログラムというものがある。

〈鈴木観光課長〉

市町村独自で協力金という形で集めているところは把握していない。

〈松沢部会長〉

今議論しているのは、白馬村独自の観光財源である登山協力金。これは昨年から財源確保検討委員会で用途について話し合いがされてきたが、協力金なので税金ほど強制力がないため、金額のボリューム感が読めない。

加えて、長野県と白馬村の2階建てで宿泊税を導入することは決まってきた。並行して検討している登山協力金の用途についても意見があれば出してもらいたい。

〈(株) からまつ 下川委員〉

その環境省主導というのはどのようなものか。

〈矢口観光係長〉

今回説明した村独自のものと環境省のトレイルプログラムというのは表裏一体というか、似たような事業となる。今は切り離して議論を行っていたが、一緒に説明を行ってしまった方が議論しやすいかと思うので説明させていただきたい。

〈大和田主事〉

トレイルプログラム（案）について説明

概要…このトレイルプログラムは北アルプス北部山域で行うもの。先月8月27日に北アルプス北部山域連絡会の会議が行われ（案）のような方向性でいくことが固まった。なお、主体は北アルプス北部山域連絡会で2市2村（大町市、白馬村、小谷村、糸魚川市）及び関係者で構成された連絡会となる。流れとして令和7年度については、一口500円で協力金を募る。令和8年度に集まった協力金の実績に基づき2市2村で計画策定し、事務局に計画書を提出する。その後事業が完了した段階で報告書を提出、事務局で精査し各市村に整備費を支払うといった内容となっている。

〈松沢部会長〉

補足…トレイルプログラムそのものは環境省主導で始まった。4年前に北アルプス山域の南部で実証実験が始まり、今も継続している。昨年度及び今年度から岐阜側、富山側でも実証実験が始まった。現在、この北部山域のみが出遅れてしまっている状況となり、来

年度からスタートする動きとなった。今回の、村独自の協力金の話とは似ているようで異なったものとなる。また、トレイルプログラムは管理者不在箇所について計画性を持って整備していくものになるので、協力金の使途についても明確なものとなっている。そこについても独自の協力金とは異なっているところだ。

〈(株) からまつ 下川委員〉

一口 500 円というのは、500 円単位で協力してもらうものになるのか。

〈大和田主事〉

他の山域で行っているトレイルプログラムの金額に沿って設定しているものになる。また、500 円というのはあくまでも目安であって 100 円やその他の額でも問題ない。

〈鈴木観光課長〉

北部地域も令和 7 年度実施に向けて動いているが、他の山域でも 500 円で統一しているためこちらも 500 円で設定させていただいた。

〈矢口観光係長〉

これは入山料ではなく協力金となるため目安という考えである。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

決めていくにあたって 2 つの取り組みがあると思うが、どちらか 1 つにするのか、2 つとも行うのかということ議論するのか。しかし、村としてトレイルプログラムに参加を意向示しているとなると 2 つを行うということではないのか。

〈鈴木観光課長〉

それも含めて検討いただきたい。事務局としてはトレイルプログラムと登山協力金の 2 つやるのは難しい。トレイルプログラムについては決定しているので、まずトレイルプログラムを導入して、登山協力金の今後の方向性など意見をいただきたい。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

登山協力金は独自で行えば白馬村の登山・山に関することに使えるお金なのか。トレイルプログラムは 4 市村で行うということか。

〈鈴木観光課長〉

登山協力金はそうとは限らない。宿泊税の中に溶け込む形になる。このトレイルプログラムは 4 市村で行う。

〈矢口観光係長〉

トレイルプログラムの案として、お金の入り方を分けることで、白馬村としてのお金を増やすことができる。

〈鈴木観光長〉

他の山域では2次元コードを分けることはあまり実施していないようだが、事務局としてはありだと考える。ただ、他市町村の了解が得られていないので議論をしている。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

そもそも今回の会議はトレイルプログラムと登山協力金の両方の検討をするということか。トレイルプログラムは決まったことではないのか。

〈矢口観光係長〉

経緯は、新たな税源を検討する中で宿泊税などそれぞれの部会ができ、登山協力金についても部会ができた。それと同時進行でトレイルプログラムも出てきたので一緒に考えることになった。

今回の会議で詰めたいことは、トレイルプログラムだけにしてもいいのではないかということ。この方向性について、財源確保検討委員会に12月までに報告をしたいので決定していきたい。

事務局としては一本化していきたい考え。

〈松沢部会長〉

一山小屋経営者としての意見だが、観光財源基金に登山協力金を入れると、財源確保検討委員会で用途が決まっていくので、登山の環境にお金が使われるかわからない。登山道の整備をしていかなければいけない実態は顕著なので、計画性を持って使って欲しい。トレイルプログラムの方は登山道を維持していく協議ができるようになる。白馬村独自の登山協力金はなしにして、トレイルプログラムに参加した方がいいと思う。

〈(株) からまつ 下川委員〉

自治体の境にある登山道もあるので、広域で話し合ってもらえれば、登山道の修復など調整がやりやすいと思う。2本立ては無理だと思う。

〈吉川副部会長〉

他市村の意見やスタンスはどうだったのか。

〈鈴木観光課長〉

基本的にはやっていかなければならないと思っている。令和7年のどこかのタイミングで始めたいということになっている。

白馬村は4月1日からやろうと提案したが、整備に時間がかかるので難しかった。始めなければならぬという共通認識は持っている。

〈吉川副部長〉

トレイルプログラムがあるなら一本化していいと思う。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

トレイルプログラムでも登山協力金でも、利用者が目的をもって納めることができ、それが目に見えて還元されていないと利用者側としては納得しないと思う。

〈鈴木観光課長〉

事務局としては、同じような内容のものが並ぶのは非常に難しい。2つの説明をしっかりとしていくのも難しい。加えて、トレイルプログラムは他の山域でも実施しており、北部地域だけ実施していない状況のなかで、令和7年度中には初めて行こうと決まったので、登山協力金より先行するのは決まっているので、一本化していきたい。

〈中信森林管理署 岡本委員〉

この地域だけトレイルプログラムの空白地帯となってしまっていて始めるということであれば、一本化するのが一番スムーズなのではないか。それと別で白馬村独自の協力金を始めると意見が出てくると思う。

〈松沢部長〉

登山協力金とトレイルプログラムを同時並行で行うのか、一本化するのか、決を取りたい。行う場合はどのようにするか。

基本的には、一本化するという意見が多かった。北アルプストレイルプログラムの中部山岳国立公園としての大きな広域での取り組みに参加するということがよいか。

(全員挙手)

一本化していくということになった。本日の議論は終了したので事務局に戻します。

4. その他

〈鈴木観光課長〉

検討部会は3回まで予定していたが、今回で結論がでたので検討部会は閉じる。財源確保

検討委員会の報告事項については書面で報告する。

〈環境省 仁田委員〉

トレイルプログラム自体は、登山道で自治体の境界線を設けてしまうと管理が難しくなる中で、実行部隊・財源・組織を広域的に対応していく策として中部山岳全体で広めていきたいという趣旨がある。

混乱する議論中で方向づけをしてもらいたいと思う。

5. 閉会

閉会宣言